

地域日本語シンポジウム 横浜 まちの日本語プラットフォーム 2022

「広がる やさしい日本語—文化施設・病院編」

主催：公益財団法人 横浜市国際交流協会

様々な分野に広がりを見せる、「やさしい日本語」をテーマに、オンラインシンポジウムを開催しました。文化施設・病院などでの取り組みを知ることを通して、また、横浜で暮らす外国の方の体験談や意見も聞きながら、誰もが住みやすく、また、人々のコミュニケーションを豊かにしていくためのヒントを、参加者全員で考える機会となりました。終了後に自由参加で行った「交流タイム」でも、登壇者への熱心な質問や参加者同士の感想共有などで、やりとりがはずみました。

<まちの日本語プラットフォームとは>

外国出身や外国につながる方たちの増加・定住化が進み、学校や職場、生活の場など、日常の暮らしで多文化を背景にした様々なコミュニケーションが行われています。多様な人々が活躍できる地域づくりにおき、日本人、外国人、活動分野の異なる人たちが行き交い、さらなる行動のきっかけを得られることを目指して、2017年度にトークイベントとしてスタートし、現在は「地域日本語シンポジウム・まちの日本語プラットフォーム」として開催しています。



右上から時計回りに
岩田さん・森井さん・赤津さん・加藤さん

参加者の声

- ・役所、学校、介護施設などだけではなく、さまざまな場で広まりつつあるやさしい日本語の実践例を聞いてとても参考になりました。
- ・やさしい日本語は外国人のためだけにあるのではない、という視点が得られ有意義でした。
- ・各施設、病院が「やさしい日本語」に積極的に取り組んでいることを知り、外国人にとってとても助かり、住みやすくなると感じました。
- ・マリアナさんの困ったことについての体験談、当事者のリアルな感想が聞けました。

テーマ やさしい日本語

<基調講演・コーディネーター>

岩田一成さん
(聖心女子大学現代教養学部日本語日本文学科教授)

登壇者

<事例報告>

森井健太郎さん(横浜市民ギャラリー館長)
赤津 祐衣さん(済生会横浜市東部病院国際連携室
外国人患者受入れ医療コーディネーター)

<コメンテーター>

加藤マリアナさん(ルーマニア出身
特定非営利活動法人国際交流ハーティ港南台理事)

日時 2023年3月28日(火) 19:00-20:45
20:45-21:25 参加者交流タイム(任意参加)

場所 オンライン(Zoom)

参加者 61人



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！



地域日本語シンポジウム 横浜 まちの日本語プラットフォーム 2022



「広がる やさしい日本語—文化施設・病院編」

主催：公益財団法人 横浜市国際交流協会

基調講演

「やさしい日本語の広がり」 岩田一成さん

「やさしい日本語」の概説と具体例を、外国人の目線でみつけた街のサインの紹介などと合わせお話しいただきました。相手に合わせてわかりやすく伝える日本語「やさしい日本語」は、日本語を母語としない人だけでなくさまざまな人に用いられており、だれひとり取り残さない、というSDGsの理念ともつながっています。やさしい日本語にする前に、読みにくい日本語を普通の日本語にすることが大切です。国レベルでも普及に取り組んでいること、また、やさしい日本語の広がり例として、医療関係者へのよびかけや自治体職員の研修についても紹介がありました。

事例報告

「『文化施設』における試み」 森井 健太郎さん

横浜市民ギャラリーの使命のひとつ「あらゆる人を受け入れる」のとおり、外国の方にも利用しやすい施設に向けた試みが始まっています。その一例として「芸術文化施設のための『やさしい日本語』入門研修」の紹介がありました。この研修では、施設管理・事業担当や学芸員のほか、警備、清掃、設備など多職種のスタッフが、ともに学んだそうです。また、(公財)横浜市芸術文化振興財団管理運営各施設での事例も紹介されました。講座の申し込み方法をやさしい日本語表記にした例や、美術館の作品解説文の見直し・書き換えプロジェクトなどの取組みを知ることができました。

「済生会横浜市東部病院のやさしい日本語の取り組み」 赤津 祐衣さん

月に約700人の外国人患者を受入れるなか、英語よりもやさしい日本語のほうがコミュニケーションを取りやすい可能性がみられたことから、やさしい日本語の院内普及に取り組んでいます。ホームページや患者向け案内、院内の看板や設備の表記などでやさしい日本語を活用するとともに、職員研修なども行っているそうです。通訳を介さずにスタッフ自身が患者とコミュニケーションがとれるようになり、信頼関係ができ、看護・診療がスムーズになったとのこと。日本人住民と同じ医療サービス(治療の成果やQOL)を提供したいという理想も伝えていただきました。

ディスカッション

登壇者によるディスカッション「広がる やさしい日本語」

コメンテーター 加藤マリアナさんの話

日本在住20年で4人の子育てをしているマリアナさんは、ご自身の体験を紹介しながら、日本語でのコミュニケーション、やさしい日本語についてコメントしました。当初は日本語がわからず、子どもができたときには、病院で問診票を書くのにどきどきしていたこと。子どもが学校に入る前、日本語でのお知らせの山が届き、大変だったこと。がんばって運転免許を日本語でとったこと、など豊富な体験が紹介されました。国では色々なことをしていたのに、日本に来たらできない人になってしまったと感じる人が多いそうです。日本語はひらがな表記があるとわかりやすいこと、「やさしい日本語が必要です」と伝えられる掲示が窓口にあるとよい、など具体的な提案もありました。

ディスカッション

- これまでの話を受け、参加者からのチャットでの質問やコメントも共有しながら、話を深めました。
- ・日本語のサポートにより、学校のプリントで大事なものを区別できるようになったと感謝された。
 - ・やさしい日本語文書を外国籍の方にみてもらった。その視点がとても参考になり、日本人が思い込んでしまっていることも多いのだと気づいた。
 - ・文化施設にはことばを必要としないノンバーバルなものもある。足を運ぶ人をどうふやせるか、やさしい日本語はスタート地点と思っている。
 - ・病院での取組みが、地域連携として広がっていくといい。



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！

